

2021/7/21

商品企画部
中島 三養子

マーケット・フォーカス

商品：原油

弱気材料に大きく反応、強い米需給が継続するか

- OPEC プラス合意を嫌気、変異株感染拡大懸念から限月交代前のポジション調整に
- 米国需給はタイト。今後、行動規制等が再導入されると上値を抑制か
- 世界需給は 2021 年は小幅供給不足も、22 年には小幅供給過剰となる見通し

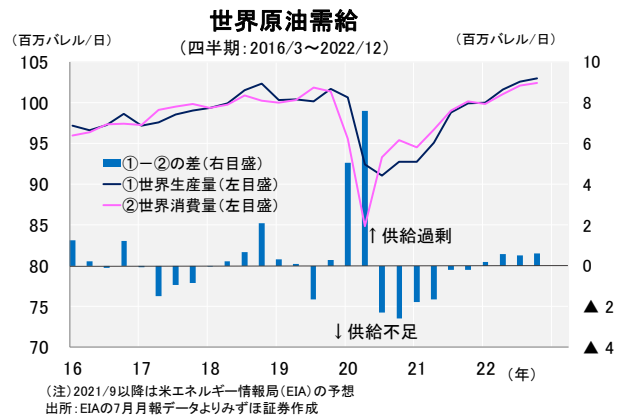
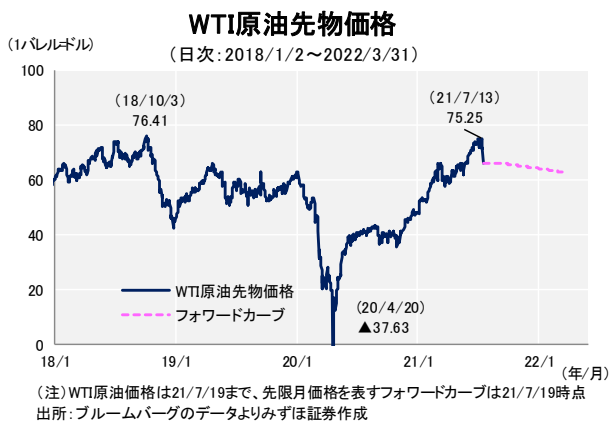
OPECプラス合意を嫌気、変異株感染拡大懸念も

WTI原油先物価格は、8月限が7/19に前日比▲7.5%の1バレル=66.42ドルと大幅下落。また、石油輸出国機構(OPEC)と非加盟国によるOPECプラスは、18日の閣僚協議で協調減産幅を8月から毎月日量40万バレル縮小することで合意。協調減産の枠組みを2022年末まで延長する一方で、延長に反対していたアラブ首長国連邦(UAE)に減産の基準となる生産量の引き上げを認めた。加えて、サウジアラビアやロシアなどの基準生産量も増やしたことが嫌気された。また、新型コロナウイルス変異株の感染拡大により、行動規制が再導入されると需要が減少するとの懸念も。なお、8月限は限月交代を7/20に控え、高値警戒感から売りの動きが出たもよう。

米需給のタイト化から高止まりか、行動規制なら上値抑制に

一方、米国では需給がタイト化している。経済活動の再開や北米での熱波による影響からエネルギー需要が高まっており、米在庫は減少に。供給面では大手メジャーによる石油投資の縮小から原油生産量は横ばい。足元は好調な米景気を背景に、ガソリン需要の拡大が続くかが焦点となろう。他方、新型コロナ変異株の感染拡大により、米国でも行動制限等が再導入されると、原油価格は伸び悩む展開か。

米エネルギー情報局(EIA)によれば、世界原油需給は2021年は小幅供給不足も、22年に小幅供給過剰の見通し。目先は不安定な地合いが想定され、米需給のひっ迫から高止まりする可能性も。一方、22年には米金融当局による資産買い入れ額の縮小(テーパリング)観測の高まりからドル高に振れるとみられ、長期的な原油価格はじり安の展開か。以上から21年後半の予想を1バレル=55~85ドルとする。



この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資に関する最終決定はご自身の判断でお願いいたします。また、本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したのですが、その正確性、完全性を保証したものではありません。本資料に示された意見や予測は、資料作成時点での当社の見通しであり今後予告なしに当社の判断で随時変更することがあります。最終ページに金融商品取引法に係る重要事項を掲載していますのでご覧ください。

金融商品取引法に係る重要事項

- 当社取り扱いの商品等(外貨建商品等も含む)にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料(投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料および信託報酬等の諸費用等)をご負担いただきます。債券を当社との相対取引によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- 各商品等には価格の変動や発行者の信用状況の悪化等により損失が生じるおそれがあります。
- なお、債券の利金・償還金の支払いについて、発行者の信用状況等によっては、支払いの遅滞・不履行が生じるおそれがあります。
- 外貨建商品等の売買等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。また、売却時等の為替相場の状況によっては為替差損が生じ、損失を被るおそれがあります。
- 商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

商号等：みずほ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

広告審査番号：MG5690-210721-07